

主要経済指標等 (2014年)

- 人口.....182万人
- GNI 総額.....72.93億ドル
- GNI 一人あたり.....4,000ドル
- 経済成長率.....2.5%
- 失業率.....—
- 対外債務残高 (2013年).....21.99億ドル
- 援助受取総額 (支出純額) (2013年).....5.33億ドル
- DAC分類.....低中所得国
- 世界銀行分類.....iii/低中所得国

出典) WDI (世界銀行) 等。詳細は解説参照

表-1 我が国の対コソボ援助形態別実績 (年度別)

(単位: 億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2010 年度	—	5.74	0.93(0.92)
2011 年度	—	0.20	1.48(1.42)
2012 年度	—	0.85	1.81(1.78)
2013 年度	—	0.27	3.55(3.48)
2014 年度	—	0.21	0.97
累 計	—	7.50	9.77(9.61)

※脚注参照

ミレニアム開発目標 (MDG s) 代表的な指標

	過去データ	最新データ
●目標 1 : 1 日 1.25 ドル未満で生活する人々の割合	—	—
●目標 2 : 初等教育における純就学率	—	—
●目標 3 : 初等教育における男子生徒に対する女子生徒の比率 (男子を 1 とした時の女子の人数)	—	—
●目標 4 : 5 歳未満児の死亡数 (1,000 人あたり)	—	—
●目標 5 : 妊産婦の死亡数 (出生児 10 万人あたり)	—	—
●目標 6 : 15~49 歳の HIV 感染率 (100 人あたりの年間新規感染者数の推定値)	—	—
●目標 7 : 改良飲料水源を継続して利用できる人口の割合	—	—

出典) Millennium Development Indicators (The Official United Nations Site for the MDG Indicators)

主要ドナーの対コソボ経済協力実績 (2013 年)

(支出総額ベース、単位: 百万ドル)

1 位 スイス	68.13	2 位 ドイツ	32.71	3 位 スウェーデン	25.17	4 位 米国	21.66	5 位 オーストリア	12.54
----------------	-------	----------------	-------	-------------------	-------	---------------	-------	-------------------	-------

出典) OECD/DAC

コソボに対する我が国ODA概要

1. 概要

我が国は、コソボ情勢が悪化した 1998 年以来、国際機関を通じて人道・復興支援を実施してきた。2009 年の外交関係開設後に、二国間援助を開始し、環境分野や文化分野での無償資金協力、技術協力、研修員受入れ及び専門家派遣を通じ、コソボの開発に大きく寄与している。

2. 意義

コソボは、西バルカン地域において開発が遅れており、特に環境インフラ整備が大きな課題となっている。我が国が環境分野で同国の取組を支援することは、我が国との友好関係の一層の強化に資することに加え、同国のみならず、西バルカン地域全体の安定にとっても重要である。

3. 基本方針

持続可能な国造りに向けた経済・社会基盤の安定化：我が国の高い技術と豊かな知見を活用できる比較優位のある分野を中心に、同国の持続可能な国造りに向けた経済・社会基盤の安定化を支援する。

4. 重点分野

- (1) 環境インフラ整備・管理能力向上：コソボでは環境対策が遅れているため、持続可能な安定した国造りに向け、環境分野における取組の強化を支援する。
- (2) 行政能力の向上と人材育成：保健衛生分野を始めとする各種行政機関の人材育成を図るとともに、地方部の格差是正にも資する支援を行う。

※注) 1. 年度の区分及び金額は原則、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力は予算年度の経費実績ベースによる。

2. 2010年~2013年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2014年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。

()内はJICAが実施している技術協力の実績及び累計となっている。

表-2 我が国の年度別・形態別実績詳細 (表-1 の詳細)

(単位：億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2012年度	なし	0.85 億円 ・コソボフィルハーモニー交響楽団楽器 整備計画 (0.58) ・草の根・人間の安全保障無償(3件) (0.28)	
2013年度	なし	0.27 億円 ・草の根・人間の安全保障無償(4件) (0.27)	
2014年度	なし	0.21 億円 ・草の根・人間の安全保障無償(3件) (0.21)	
2014年度 までの累計	なし	7.50 億円	9.77 億円 (9.61 億円) 研修員受入 247 人 専門家派遣 62 人

注) 1. 表-1 注釈同様

2. 技術協力においては、2012年度以降に開始され2014年4月の時点で継続中の技術協力プロジェクト案件のみを掲載している。案件の [] 内は、協力期間。

コソボ

表-3 我が国の対コソボ援助形態別実績 (OECD/DAC 報告基準)

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	有償資金協力	無償資金協力	技術協力	合計
2010年	—	0.15	0.93	1.08
2011年	—	0.39	1.54	1.93
2012年	—	5.75	2.18	7.92
2013年	—	0.31	3.56	3.86
2014年	—	0.61	1.12	1.73
累計	—	7.20	9.48	16.68

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 国際機関を通じた贈与については、2006年より、拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することとしている。
2. 有償資金協力及び無償資金協力は、これまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額（有償資金協力については、コソボ側の返済金額を差し引いた金額）。
3. 有償資金協力の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。
4. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。

表-4 主要ドナーの対コソボ経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2009年	米国 207.44	スイス 44.99	ギリシャ 32.76	ドイツ 32.55	オーストリア 21.40	0.15	434.53
2010年	米国 100.97	スイス 52.71	ドイツ 30.94	ノルウェー 24.24	スウェーデン 19.62	1.08	285.01
2011年	米国 92.27	スイス 59.54	ドイツ 34.94	スウェーデン 23.01	ノルウェー 19.07	1.93	279.24
2012年	米国 99.55	スイス 64.40	ドイツ 29.08	スウェーデン 22.82	英国 16.31	7.92	299.72
2013年	スイス 68.13	ドイツ 32.71	スウェーデン 25.17	米国 21.66	オーストリア 12.54	3.86	225.67

出典) OECD/DAC

表-5 国際機関の対コソボ経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2009年	EU Institutions 315.91	UNHCR 4.24	UNDP 1.99	UNICEF 1.45	GFATM 1.22	0.53	325.34
2010年	EU Institutions 279.32	OSCE 28.28	GFATM 1.95	UNICEF 1.62	UNDP 0.86	0.57	312.60
2011年	EU Institutions 304.83	OSCE 28.05	IDA 11.92	UNHCR 7.34	UNICEF 1.75	1.71	355.60
2012年	EU Institutions 200.96	OSCE 24.54	IDA 13.98	UNHCR 4.41	GFATM 2.35	2.28	248.52
2013年	EU Institutions 231.38	OSCE 23.41	IDA 10.31	UNHCR 5.01	UNICEF 1.99	1.75	273.85

出典) OECD/DAC

注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-6 実施済および実施中の開発計画調査型技術協力案件 (開発調査案件を含む) (開始年度が2010年度以降のもの)

案 件 名	協力期間
地理空間情報人材開発プロジェクト	13.10~15. 6

出典) JICA

表-7 2014年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

案 件 名
イシュトグ家庭医療中央センター救急車・医療機材整備計画
シェラディン・デグ視覚障害者学校・能力センターエレベーター整備計画
ベヤ市消防署消防車整備計画

主なプロジェクト所在図 (2012年度—2014年度)

欧州地域

